

ウィルグループ角社長「資格取得や職種転換で派遣スタッフ定着へ」 – Leader's Voice

2026/09/29 05:00 日本経済新聞電子版 911文字

人材サービス大手のウィルグループは2029年3月期までの3カ年の中期経営計画で、エッセンシャル職を国内事業の最注力領域に定めた。角裕一社長は「働き手が資格取得や職種転換を通じてキャリアを構築し、長く働けるよう支援していく」と意気込む。



ウィルグループの角社長

——エッセンシャル領域で特に注力したい領域は。

「職種を限定していないが、（事業拡大の）景色が見えているのは建設だ。需給が明らかに崩れている。（ロボットが自律的に動く）フィジカルAI（人工知能）が普及する35年ごろまで人材不足は続くだろう。製造やヘルスケア領域にも注力する」

「昔のように大量に人を採用し、辞めてもまた採用するという派遣のビジネスモデルは成り立たない。採用環境は厳しく、人材獲得コストも上がっている。働く人から選ばれる会社でなければ成長できない」

——人材確保のためにどういった強みを磨きますか。

「選択肢を増やすために派遣という働き方を提供するプレーヤーになりたい。事務や製造、建設など働ける領域で無二の広さを持つ。グループ内で働き始めた人が、建設やITなど専門性や処遇がより高い仕事に移っていける環境をつくっていく」

「将来に不安はあるが何をしたいのかわからない人は多い。『次はこういう仕事を目指せる』『こう進めば次のステップに行ける』というように、資格取得や健康支援を含めてキャリア構築を伴走する。AIで効率的に学習できるよう手助けもする。資産形成や健康面の管理に十分に手が回らない人もいる。福利厚生のような形で、派遣で働く人を支えられるようにしたい」

——伴走は事業成長につながりますか。

「資格取得や職種転換、健康支援で派遣スタッフの能力を最大化できれば、その人の給料が上がる。できる仕事の幅も広がって定着するというサイクルができる。派遣スタッフが生涯を通じて生み出す価値（LTV）を現在の1.5～2倍程度まで高めたい」

（聞き手は丸山景子）

角 裕一氏（すみ・ゆういち） 2003年（平15年）麗沢大国際経済卒、セントメディア（現ウィルオブ・ワーク）入社。18年ウィルグループ執行役員。22年取締役。23年から現職。26年6月から日本人材派遣協会会長を務める。千葉県出身。45歳

【関連記事】

- ・技術者派遣が定着競争 BREXA、2000人職種転換で離職防止
- ・ウィル、施工管理技士の検定試験対策アプリ 未経験でも学びやすく

許諾番号NK004699 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.